

会 議 録

- 1 会 議 名 令和4年度 第1回 北九州市自殺対策連絡会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上の会合
- 3 議 題
 - (1) 開会
 - ・事務局挨拶
 - ・委員紹介
 - (2) 報告事項
 - ・自殺の状況について
 - (3) 協議事項
 - ・北九州市自殺対策計画の評価・見直しについて
 - (4) その他
 - ・北九州市自殺対策連絡会議構成員の自殺対策関連取組み状況票確認のお願い
- 4 開 催 日 時 令和4年6月2日(木)
18時30分 ～ 19時45分
- 5 開 催 場 所 総合保健福祉センター 2階 講堂
(北九州市小倉北区馬借1-7-1)
- 6 出席者氏名
別紙「令和4年度第1回自殺対策連絡会議出席者」のとおり
- 7 議 事 概 要
 - (1) 開会
 - ア 事務局挨拶
 - ・事務局にて開会宣言を行った。
 - イ 委員紹介
 - ・出席した委員が順に自己紹介を行った。

(2) 報告事項

直近の自殺の状況について

- 令和3年の全国の自殺者数

全体で21,007人であり、令和2年と比べて74人減少となった。

男女別に見ると、女性よりも男性が多い傾向には変わりはないが、男性は減少傾向（14,055人→13,939人）が続いているのに対し、女性は、令和2年7,026人、令和3年7,068人と、ほぼ横ばいとなっている。

- 月別の自殺者数の推移

令和2年は、男女ともに10月が最も多かったが、令和3年は、3月が最も多く、12月が最も少ない状況であった。

- 年齢階級別の自殺者の推移

令和3年は、令和2年と比較し、20歳代、40～50歳代で増加がみられた。

内訳は、50歳代が最も大きく増加し、193人の増加となりました。一方、減少が最も大きかったのは60歳代であった。

また、令和2年は小中高生の自殺が499人と過去最多となったが、令和3年は473人と令和2年に次ぐ状況となっている。

- 今年(令和4年)について

速報値で、1月から4月のいずれの月も、令和3年と比較して減少している。男女別に見ると、男女ともに令和3年と比較して減少している。

- 北九州市の自殺者数の推移

本市の自殺者数は、平成26年に200人を下回った後、全国と同様に、概ねは減少傾向にあるが、令和元年以降、令和2年に163人、令和3年に169人とわずかに増加している。

令和4年では、速報値で、1月と2月は前年を上回り、3月と4月は前年を下回っている。

(3) 協議事項

北九州市自殺対策計画の評価・見直しについて

- 北九州市自殺対策計画の概要を説明

- 数値目標について

人口10万人当たりの自殺者数を表す自殺死亡率を、令和8年までに平成27年に比べて30%以上減少させることを目指している。

- 計画の評価見直しの考え方について

計画期間の中で、各種施策等の成果について評価を行い、自殺対策基本法または自殺総合対策大綱の見直し等の国の動向も踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行う。

- 評価見直しの方法について

関係機関・団体で構成する、北九州市自殺対策連絡会議において協議し、評

価と見直しについて検討を行う。

- 計画のスケジュールについて

今後、庁内連絡会議において、市の関係機関、関係局を集めての会議を開催。

その後、夏頃に、国の自殺総合対策大綱が閣議決定される予定となっており、

11月に予定している令和4年第2回北九州市自殺対策連絡会議においては、その内容を踏まえて、計画の素案を説明できるよう準備していく。

(4) その他

北九州市自殺対策連絡会議構成員の自殺対策関連取り組み状況票 確認のお願い

8 会議経過（発言内容）

【7-（2）直近の自殺の状況について】

- 議長： 令和2年、令和3年と若者の自殺者が増えていると伺ったが、動機別でみると学校問題だけで自殺者が増えているわけでは無いという認識でよいか。

もし、そうならば、それに対する分析等は国の方ですか。

→事務局： 若者の自殺で説明したのは、小中高校生の自殺が令和2年に過去最多になった。

そこで、全国の自殺の状況について、未成年者の自殺の原因についての資料が、自殺対策白書に出ており、未成年者の自殺の原因の中で統計上多いのは、健康問題、学校問題、家庭問題が多いという傾向がある。

学校問題という中の内訳を細かく見ると、学業不振、その他進路に関する悩みという状況になっている。

- 議長： 学校に行けず、悩んで相談に行きづらい状況等も影響しているのか。

→構成員： 今の事務局からの説明にあったように、これまで背景として考えられることは、学校問題が多かったが、近年では、健康問題の方が学校問題を上回った。

理由としては、子供のうつ等が影響していると考えられる。

- 構成員： 現状、北九州市での、児童思春期の受け皿が少ない。

病名としては発達障害が多い。

原因としては、子どもが核家族化で、一人で遊ぶことが多く、

社会性がなく、健全に育つ環境が思春期の間にあまりないということも考えられる。

さらに、愛着障害等類似する病気も少しずつ増えており、社会の受け皿が弱くなっていると考えられる。

- 構成員： 学校問題について、最近では、コロナ禍で学校に行けていないが、行かない時期の学校問題というのは、何なのか。

学校問題が減っているというのは、学校に行っていないから減って

いるということではないのか。

→事務局： 学校問題の内訳について、学業不振、進路があり、小中学校生、高校生の割合が多いという統計上にはなっているが、学校には行かない間でも、卒業のことや進学、それらについての悩みというのが、統計上現れているのかもしれない。

- 構成員： 当院でも、未成年の患者は発達障害が多い。
私の印象では、発達障害の方は変化に弱いと考える。

【7-（3）北九州市自殺対策計画の評価・見直しについて】

- 議長： 北九州市がこの大綱に従って、様々な施策を行っており、これを評価していく。

特に現場で増えた相談事や、最近の傾向等あれば意見を出してほしい。

そこから見直しのポイントや視点を、市の方で検討していただく。

- 副議長： 本計画が、エビデンスに基づいた施策になるよう勧めなければならない。

今まで、本会議に参加し様々な施策について聞いてきたが、結果報告のみのもので、そこが曖昧なまま進んでいるようだった。

それも大事だと考えるが、市の方で、積極的にインターネット等活用しアンケートを取る等、アプローチをしていかないと結果が出ないのではないかと個人的に考える。

→事務局： 今年の2月、ひきこもりに関連する実態調査を行っており、その中にメンタルに関する質問入れている。

前回の見直しの際の令和2年7月に行った実態調査と比較できないかと考えており、コロナ禍に入って、数か月たったものと、2年近く経過したものとどのような変化が起きているか、その間、自殺者は増えている状況があり、何が起きているのかを調べている。

→副議長： 今後そのようなアプローチが、非常に大事であり、何かをやる際に、その結果を検証していくことが、北九州市のためになると思い発言した。

- 構成員： 社会福祉協議会でも、福祉協力員への意識調査を行った。

その中の意見で担い手になるようアプローチではなくて、福祉協力員としての活動は、自身にとっても、様々なメリットがあることを強調しつつ、多くの方に、地域活動に参加をしてもらうことが繋がりを持ったと感じた。

→構成員： コロナ禍で、労働環境や会社の経営は非常に厳しい状態が続いている。

そのような中で、感染対策をして集まる機会を作ると皆、直接話をしていく中で、様々な悩みがあったり、自分の内にあるストレス等

の発散が出来ていたと感じた。感想である。

- ・ 構成員： 精神科領域の切り口で言うと、今、新型コロナウイルス感染症以上にウクライナの問題、北朝鮮、中国の動き等により影響を受けた患者が増えてきている。

テレビのニュースのボリュームもコロナよりウクライナの問題を多く取り上げているから、今後自殺にも関係してくると思われる。

- ・ 構成員： 看護師という立場で言うと、令和2年、令和3年に採用された看護師の中には、メンタルで病欠になる方が多いように見受けられる。
- ・ 構成員： 経営者側の視点で言うと、自営業者等の自殺者数が増えたというのは、少し驚いた。

今後、困ったときの相談の席として、本会議を通じ様々な支援を連携の中で知っておくと、紹介が出来ると感じた。

- ・ 構成員： メール等でアンケートを取り、それらを集計し統計情報として、まとめると、自殺について様々な情報が得られ、傾向等がつかめると、今後の支援にも役立てると感じる。
- ・ 構成員： 子どものこころの健康について、最近の自殺の状況を見て、うつ等が挙げられている中で、精神科病院と学校とが連携をとれるようにすれば、学校の教員は安心するのではないかと考える。
- ・ 構成員： いのちの電話に相談の電話をかけてくる年代は、年齢層の高い50代～70代が多く、若者はアプリ等のツールの方が入りやすいのではないかと。高校生の自殺が多いという話があったが、若者は、話すこと自体が面倒に感じているように受け止められる。
- ・ 議長： 本日は、様々な視点から大変貴重な話をしていただけたと思う。
市の方でも真剣に検討してくれるということだと思うので、市から個別の相談があった時は、ぜひ、ご対応いただければと思う。

9 問い合わせ先 保健福祉局技術支援部精神保健福祉センター
電話番号 093-522-8744